

2022年7月3日 大井バプテスト教会 礼拝説教

説教題「わたしたちがパン、たべてるとき」一コリント11章22～26節 広木 愛

あなたがたには、飲んだり食べたりする家がないのですか。それとも、神の教会を見くびり、貧しい人々に恥をかかせようというのですか。わたしはあなたがたに何と言ったらよいのだろう。ほめることにしようか。この点については、ほめるわけにはいきません。わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

(一コリント11:22～26)

我が家の絵本コーナーに、すぐ手に取れるところにあった「ぼくがラーメンたべてるとき」。ラーメンを食べているぼくのおとなりさんは、何をしているだろうか・・・と想像力を膨らましていく作品です。隣の家、隣の町、隣の国が続いて、一周して、僕の家に戻ってくる。小学科の礼拝で一度読みましたので、もしかしたらホームページでみられるかもしれませんし、本屋さんでも簡単に手に取って読めるかと思えます。

自分の隣の人が一体どういう人なのだろうか、意識してみると、いろんな想像ができるのではないかと思います。今日の礼拝の席のお隣、前後、お名前とお顔は一致していますか？その人のことはどれだけ知っているのでしょうか。もし知らない人が座っていたら・・・知っている人がいつもと違う行動をとっていたら・・・そんな意識を私たちはしているのでしょうか。

もう知っている人が少なくなってきた黒電話。留守電もない時代、「今、お仕事かな」「学校かな」「まだ会社かな？」「もう寝ているかな」とどこか気を使っていたなあと思います。夜中かかってくる電話は、訃報か病院、消防署、警察・・・と緊急を要するものだったように思います。それが今、留守番電話やメールが普及し、いつでも連絡が取れる時代になりました。アナログかデジタルか・・・どっちがいいのか・・・はわかりません。でも、黒電話の時代ほどではなくても、デジタル化された今でも、多少の想像力は・・・必要なのではないかと思います。

コリントの教会では、「晚餐です！はい！集まった人から食べましょうと決まっています！はい、来た人だけで食べちゃいましょ！遅れてきた人が悪いんです！」と、お食事が進められていたのかも知れません。その人がなぜ遅れてこなければならなかったのか、お腹を空かせて来ていないか。初代教会は、み言葉とパン裂き（主の晚餐）を大切にしていたのにも関わらず、その食卓にも、加われない人がいた。しかも加われない・・・とわかっている、そのまま集会が進んでいって、そのことを知った、パウロが一言、もの申したのだろうと想像します。

福音書に出てくるイエスさまも、勝手にイエス様についてきた人たちが食べるものがあるだろうか・・・と心配されておられたのも、他の人たちの気持ちに寄り添っておられたのかなぁと思います。

今の私たちの主の晚餐に置き換えてみると、パンのブロックに小さなカップのぶどうからできた飲み物一口。しかも、コロナになって、それさえも口にしないとすると、別にここにいる人だけが満足な食事しているんじゃない。パウロに怒られるようなことはしていない！と思えます。

でも、パウロが言いたかったことは、自分たちの共同体、礼拝に集う人のこと、また、その場にはいない人たちのこと、気をかけていますか？ってことだったのではないかなぁと思うのです。

パウロの言葉、キリストの共同体は、自分と神様との関係が整っておけばいい・・・ってだけでは終わらない。教会も、教会の礼拝に集っている人たちが良ければそれで良い・・・というだけの共同体ではない場所だと思います。教会が置かれている場所で、何が必要とされているか、何を地域は教会に求めているだろうか、それを小さな視点に置き換えてみると、私の隣で礼拝をしている初めましての人がいたときに、この人は私とは関係ない人・・・ではなく、共に礼拝を捧げる共同体の一員である、この人は、何か困っていないだろうか・・・いつも見るあの人がいないけれども、どうしたんだろう・・・という相互牧会と言われる動きが生まれ、バプテスト教会になっていくのではないのでしょうか。

私たちの礼拝は、パウロさんのいう、主の食卓、主の晚餐ができていいのか。教会の社会への態度は、主の食卓の意識を持てているのか、そんな問いを、主の晚餐の制定句から問いかけられているように思います。

わたしたちが礼拝をささげているとき・・・わたしがクリスチャンしているとき・・・神様がおつくりになった世界で何が起きているのか、その中で、主ご自身から私たちが今招いておられることは一体どんなことなのか・・・思い巡らしながら、この週も過ごして参りたいと思います。